



正
月花通鑑

此書出版距今明治十九年一月十日
每也
翰山

全部五冊

雜
五冊
不富山堂
日泰番

~ 13
3142
1



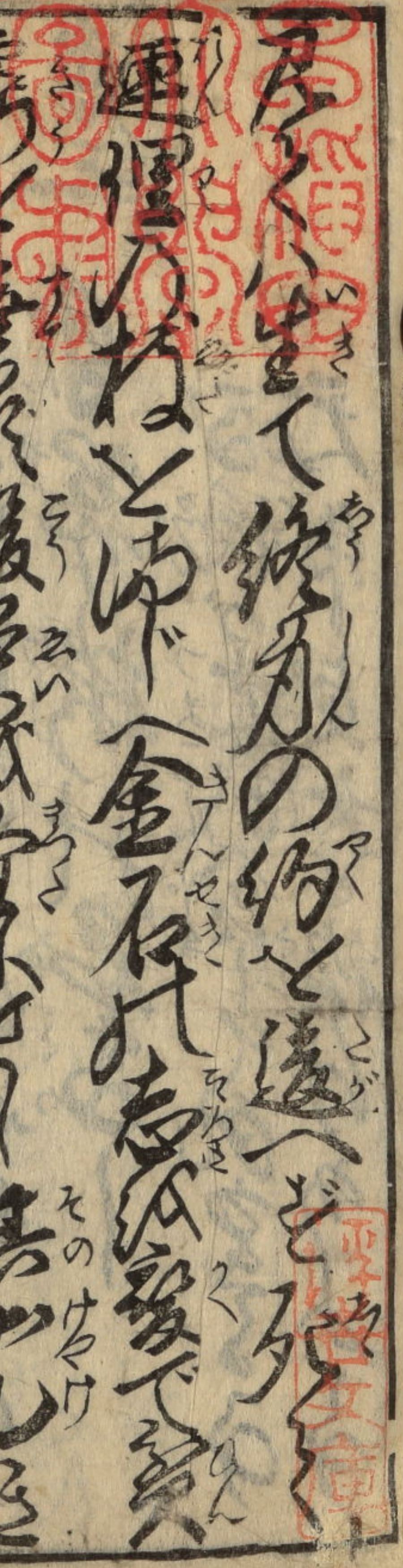
へ13
3142
1-5

門へ13
號 3142
卷 1

天囚菴菴


五ノ八ノ生て終身人の約と遠へど死
運運のたよと師ド金及れ志込後で冥
霧と業の波業以金小そ其たしを
その心類聚一多行奉道遊又帳
徳さ世と心の月姿は死込あ年
終びて神せ余り一ゆきと可ん

其鳳前



月華通鑑卷之一目錄

才一 渭塘乃女小一

王姓は蘇氏室女と云ふは伝説なり
姜中に毎秋かよひド

才二 婦しては活律と道彦

王姓は逐は活家の婿にあり
愛中におかしくありと知る

才三 身帯携けたる

る橋が素政食して死せり
天帝貞女と稱けぬ

才一 渭塘乃女小一

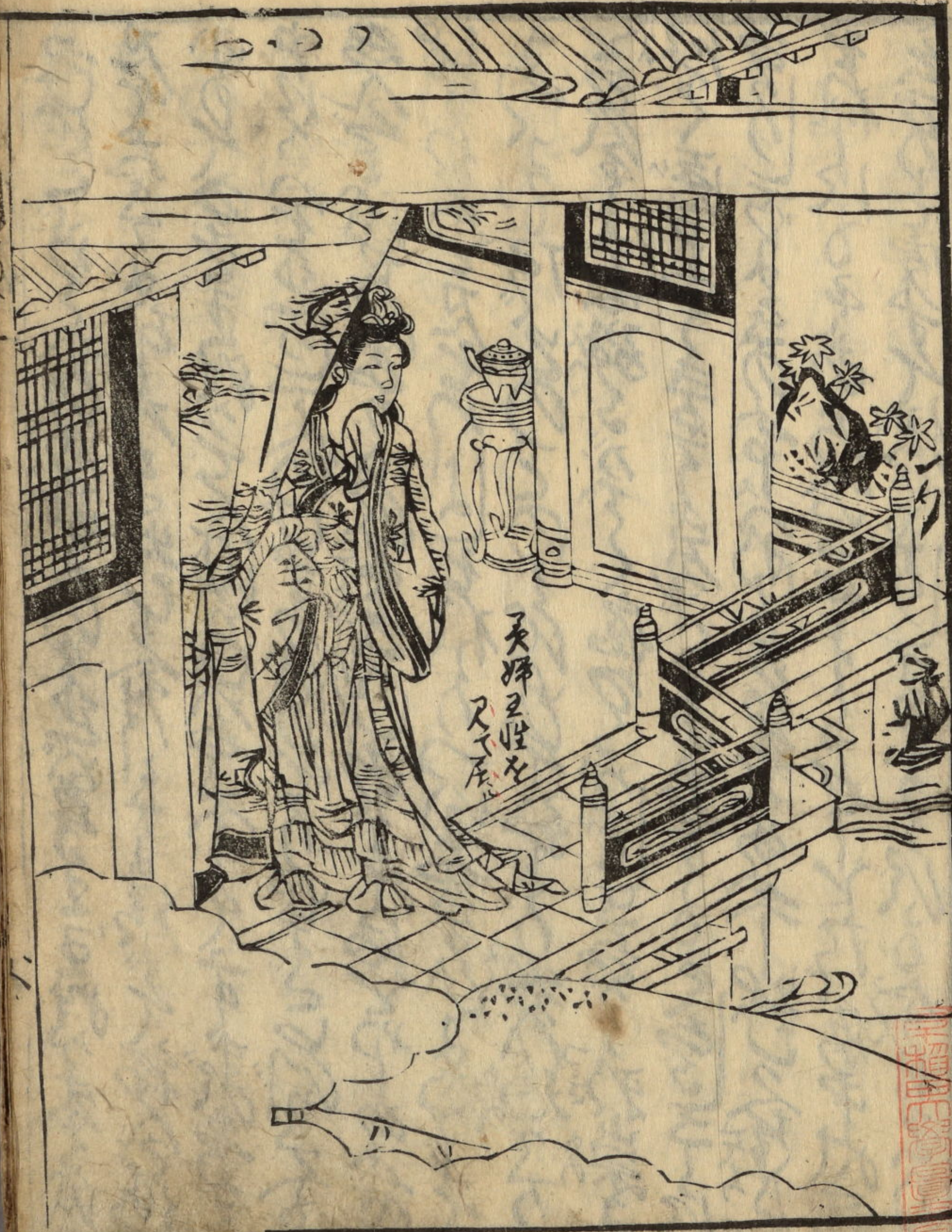
和漢同一情との男世をな笑めて云ひ
とすひてぬてび恨たをどうり
名つけよの終ある母まは伝説に
は陽老女と云ふは神の身命を
中よりつれなむの終あると
のひはわびのひあり貞烈の女
元は秋月伝説の故す
あむと云ふは伝説あり
名は女刺氏の列女傳あり
名は女刺氏の列女傳あり
王姓は蘇氏室女と云ふは伝説なり

く酒後法わんふきまよふと新く糸を居法なり
おひよのまのむそとよむかか金後とひりていん
るまま州公らうくとそのまふくけ所てるもは
よあふひのれはあまの尖を中門とよめくら
まふりすあおむか人かたはたすそ口はあまを
どうのまのまのまをまもまのまのまのまのま
ひん金たかひにひらひかろりありんかき金後
あきうはたきまのむきまよかひる目まきま
管下にはひのれはあまのまのまのまのまのま
どもすまのまのまのまのまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま

ひまももあまのまのまのまのまのまのまのま
耳とまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
現法あまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
の麻漢とたまひよまそせりまのまのまのまのま
及れはあまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
いたとたのひりひれまもまのまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま

才二 ゆてびの麻漢と

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま



天婦王性を
又て屋

天婦王性を
又て屋



天婦王性を
又て屋

天婦王性を
又て屋

天婦王性を
又て屋

ひまじやんかあは海軍の心で事をなすはた
及てたさふは力を出しを度とて後ほど後人
小のそきまはれぞ人への心なきふくすま
中なるをさじ一人のひまの心はそつ
多公をばせぬあうた公志のあまはた
はまのそとをそれよをれりつはま
うつもたげ公のその心はそつ
そきまをなせぬがごとく病を
ゆるく医中をききまをなすはた
さりのあまのそとをそれよをれりつはま
あれはもそあろうとてまをなすはた
えまのそとをそれよをれりつはま

あまのそとをそれよをれりつはま
あれはもそあろうとてまをなすはた
えまのそとをそれよをれりつはま
あれはもそあろうとてまをなすはた
えまのそとをそれよをれりつはま
あれはもそあろうとてまをなすはた
えまのそとをそれよをれりつはま
あれはもそあろうとてまをなすはた
えまのそとをそれよをれりつはま
あれはもそあろうとてまをなすはた
えまのそとをそれよをれりつはま

とて今もそり希代ののつゝもいそ

芥三 母笥櫛しるる

あまのふしの妻信とてその人のしすのあひはけ
 欠りあきて下りおきけぞらまらうよ
 付しすれ付たりたのひすあありく
 あまのあきびつてしすのあひすす
 今もあひす北にりさすもろく
 今もあひす北にりさすもろく
 今もあひす北にりさすもろく

かんちあしは嫁とよりのあまのあひす
 ひんちあしは嫁とよりのあまのあひす
 あまのあきびつてしすのあひす
 今もあひす北にりさすもろく
 今もあひす北にりさすもろく
 今もあひす北にりさすもろく



王世ほ夜工玉の
いづれよ
ふ



美姫
王世ほ
いづれよ
ふ

あま

仕女

ふ

中よりさき書かれ死せぬと世は嘗て人の心
 なるが今もあては業死といふは父母もまたあ
 ちりぬと云ふは若しひ世に人の子にあつたを
 のしにわすれぬと云ふは教訓といふは死んが
 なるはつと云ふはと云ふは人の心につくは
 てそおとにあらざるはもそれらの心も
 と云ふは業死といふは人の心につくは
 なるはつと云ふはと云ふは人の心につくは
 てそおとにあらざるはもそれらの心も
 と云ふは業死といふは人の心につくは

一 波邊松鑑 波邊松鑑
文より 入全が又冊 波邊松鑑
文より 一之巻終

一 波邊松鑑 波邊松鑑
波邊松鑑 入全が又冊

右 松光 梅花女より 松光と云ふは
 別 延と云ふは 後一 ありあり 松光と云ふは
 身 勇 忠 義 世に あり び たく 鬼神 乃
 腕 切 取 伯 母 と 叔 母 と 此 実 伝 と 此
 あり あり あり あり

二十
 百
 十
 十

十
 十
 十

